令和３年 10 月 20 日

文部科学大臣
末　松　信　介　　様

一般社団法人介護人材政策研究会
代 表 理 事　　天 野 尊 明

義務教育課程における介護に関する体験の充実について

高齢化の進展に伴い、我が国において「介護」は、国民にとって身近なものになりました。しかしながら、実際に介護に接することになるのは、多くの場合、家族等に介護が必要になったときであり、特に若者世代にとっては「遠い未来の話」という認識がほとんどであろうと考えられます。

介護人材不足は根深い問題であり、労働環境や賃金など様々な課題が複雑に絡んだものですが、上記のように若者にとって介護が縁遠いものであるということも、職業選択の対象に含まれにくい状況を生んでいることは間違いありません。

そうした現状を変えていくためには、彼らが体験のなかで介護という仕事の大切さを知り、実際に介護従事者の働く姿に接すること等を通じて、「介護ではたらく」ことの具体的なイメージを抱けるようにすることが重要です。

またこのことは、今後ますます深刻になる高齢化の課題を社会で受け止めていくという点でも、大変意義のある取り組みであると考えます。

つきましては、義務教育過程において、介護に関する授業や社会科見学等を積極的に取り入れていただき、若者世代が介護を身近に感じられるような体験を可能とする環境整備を進めていただきたく、要望いたします。